長期におよぶ良好な口腔状態の維持安定を目指して～診る基準と施術基準～

黒川　綾
東北大学歯学部

抄録
私は、歯科衛生士となり今年で２４年目を迎えました。現在まで幸い多くの患者さんを長期間にわたって担当することができています。それは一般的に歯科受診がいまだ主訴の解決を目的としている中で１）、とても恵まれたことであると思っています。長期的に同じ方の口腔内を拝見できることは双方に利点が大きいと考えます。

まず第一に継続的な通院の実現をする方においては、慣れた環境へ通院することでストレスが軽減され、その結果通院が継続的となり、目標とされる１０年での喪失歯は１本以下を達成し、最終的な目的である良好な口腔状態の維持安定の実現に至っています。そしてその結果、第二の利点として私たち受け手側には経営的な面で月間の売上の最低限の見通しが可能であり、スタッフにおいても定期的な来院でのアポイントを頂くことはスケジュールが立てやすく労働環境を整えやすいと考えます。そんな三方良しを作り上げることも結果的に可能であると実体験から考えます。通院しやすい環境については、もちろんクリニック全員で成し遂げるものであり、私自身もスタッフさんにとても助けて頂いています。ですので、私は対象者の定期来院を実現するために心と口腔内に寄り添うように精一杯取り組むことを心掛けています。目に見える診療を実現されておられる学会員の方には釈迦に説法とは思いますが、私が対象者に何を伝え、共有し実行してきたか、その判断基準は何であるか症例を供覧しつつ共有をさせて頂けましたら幸いです。

私が在籍しております東北大学歯学部歯学研究科予防歯科学講座の小関教授の言葉を借りれば、「口の健康とは、単に疾病がないとか不具合がない状態を示すのみではなく、口の機能、即ち「食べて」「話して」「笑う」ことを円滑に行う事ができる状態を指し、それは口の持ち主の自己実現の基本であるとして、ひとを生きるための基本となる口、それぞれの生のその時を、良い状態で生活する健やかさを下支えする口、そのような口を支援することが予防歯科の臨床である」と表現しています。超高齢社会の日本において口腔から全身の健康に寄与するというミッションを持つ私たち歯科衛生士の可能性をディスカッションできる機会となることを楽しみにしております。

参考文献
１）社団法人日本歯科医師会　歯科医療に関する一般生活者意識調査 2014 年 6 月 26 日
２）Becker, W., Berg, L., and Becker, B. Untreated periodontal Disease : a longitudinal study　J. Periodontol.1979 May;50(5):234-44.

略歴
1998 年　横浜歯科技術専門学校（現横浜歯科医療専門学校）卒業
2009 年　フリーランス契約にて歯科衛生士業務開始
2010 年　スタディグループ＋α 設立
2013 年　株式会社プラスアルファ　設立　同法人　代表取締役就任
2019 年　東北大学歯学研究科　予防歯科学講座　入学
横浜歯科医療専門学校　特任講師
第二種滅菌技師
株）松風　DH コース講師